

# 平成30年度水稲・麦類・大豆奨励品種の特性表

平成30年4月  
山口県農林総合技術センター

## 水稲

種 類	早 中 晩	品 種 名	来 歴 育 成 場 所 育 成 年	採 用 年 度	試 験 地	移 植 期 月 日	出 穂 期 月 日	成 熟 期 月 日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m <sup>2</sup>	芒 の 多 少 ・ 長 短	草 型	穂 発 芽 の 難 易	脱 粒 性	玄 米						抵 抗 性						適 地	栽培上の留意事項等	概 評			
																腹 白 の 多 少	心 白 の 多 少	リ ッ ト 重 g	千 粒 重 g	収 量 kg/a	品 質	食 味	葉 い も ち	穂 い も ち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	ご ま 葉 枯 病			カ ラ バ エ	倒 伏	優 点	欠 点
早 生		ひとめぼれ	母 コシヒカリ 父 初星 古川農試 平成3年	平10	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.25 8.10 7.28	9.1 9.18 9.6	86 90 81	19.5 20.0 19.3	419 395 478	竹少・短	偏穂数	難	難	微	微	843 842 868	22.9 22.2 22.8	56.8 48.5 65.5	上の上 上の中	上の上	弱	弱	竹弱	中	中	—	竹弱	山間～中間 中庸田	耐倒伏性はやや劣るため、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、 白葉枯病弱 倒伏やや弱
		コシヒカリ	母 農林22号 父 農林1号 福井農試 昭和31年	昭54	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.25 8.08 7.30	9.2 9.15 9.8	92 93 89	18.3 19.0 18.6	409 369 445	少・短	中間	難	難	微	微	835 839 865	21.0 21.2 22.0	55.9 47.6 62.0	上の中 上の上	上の上	弱	弱	中	強	中	中	弱	山間～中間 中庸田 早植地帯	倒伏しやすいため、施肥・水管理に注意する。特に、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、予防、適期防除に努める。	食味極良 穂発芽難	いもち病弱 耐倒伏性劣 長稈
		晴るる	母 ヤマハウシ 父 コシヒカリ 山口農試徳佐分場 平成9年	平9	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.28 8.11 8.2	9.6 9.19 9.12	86 89 81	18.9 19.3 18.8	418 389 460	無	中間	竹難	難	微	微	839 841 868	23.0 22.5 23.8	56.3 48.4 67.9	上の中 上の上	上の上	竹弱	竹弱	中	竹弱	中	中	竹強	山間～中間 中～肥沃田	いもち病、紋枯病の適期防除に努める。 2次枝梗の熟れが遅れやすいため、多肥栽培を避け、刈遅れに注意する。	倒伏やや強 収量安定 良質 良食味	いもち病、 紋枯病やや弱
		日本晴	母 東海7号(ヤマビコ) 父 幸風 愛知農試 昭和38年	昭44	本場 分場	6.10 5.10	8.18 8.11	9.29 9.25	82 83	19.6 20.1	376 432	少・短	偏穂数	難	難	少	微	836 850	22.6 23.0	58.0 66.0	上の中 上の中	上の中	中	中	強	中	弱	中	竹強	中間～平坦 肥沃田	葉色がやや濃いいため、生育初期の過肥に注意する。 ごま葉枯病にやや弱いため、砂質浅耕土の秋落田、ごま葉枯病常発田は避ける。	強稈 安定多収 白葉枯病強	ごま葉枯病 やや弱 秋落ち易
		きぬむすめ	母 キヤヒカリ 父 愛知92号(祭り晴) 九州沖縄農研センター 平成17年	平21	本場 分場	6.10 5.10	8.19 8.13	9.30 9.24	84 77	17.5 18.0	358 365	希・短	中間	中	難	微	微	827 849	21.7 22.1	58.4 64.0	上の中 上の上	上の上	竹弱	中	竹弱	中	—	—	竹強	中間～平坦 中～肥沃田	初期の分けつ発生を促すため、深植、深水管理を避ける。 籾数過多となると品質が低下するため、極端な多肥栽培を避ける。 いもち病の適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、 白葉枯病やや弱
中 生		中生新千本	母 農林22号 父 隼 愛知農試 昭和25年	昭42	本場	6.10	8.24	10.8	83	18.6	460	中・中	穂数	中	中	中	微	862	23.3	58.8	上の中 上の中	上の中	中	中	弱	弱	弱	強	強	中間～平坦 中～肥沃田	分けつが旺盛なため、基肥減肥、適切な水管理に注意し、過繁茂による倒伏を避ける。 青枯れが発生しやすいため、過肥にしない。	収量安定	白葉枯病弱 腹白多い 青枯発生しやすい
		ヒノヒカリ	母 黄金晴 父 コシヒカリ 宮崎農試 平成元年	平8	本場	6.10	8.24	10.7	88	19.0	380	希・短	偏穂重	難	難	微	微	856	22.0	57.4	上の中 上の上	上の上	中	中	弱	中	中	—	強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	やや長稈のため、多肥栽培は避ける。 外観品質が低下しやすいため、早期落水をしない。 刈遅れるとうす茶米、胴割米が発生しやすい。	良食味 登熟良好	1穂粒数が多いと品質変動が大きい
		恋の予感	母 西海232号(きぬむすめ) 父 中国178号 近畿中国四国農研センター 平成26年	平29	本場	6.10	8.27	10.14	79	19.2	333	希・短	偏穂重	竹難	難	微	微	856	22.3	64.4	上の中 上の上	上の上	中	竹強	竹弱	中	中	—	竹強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	移植時期が遅れると、減収や登熟遅延の懸念があるので、極端な晩植は避ける。 葉いもちに強くないため、適切な防除に努める。	やや多収 良質 高温耐性竹強 良食味	登熟期間が低温の場合、登熟が遅延しやすい
糯 生		ミヤタマモチ	母 南海76号 父 みのたまもち 宮崎農試 平成2年	平7	本場	6.10	8.22	10.7	84	19.6	293	少・中	穂重	難	難	—	—	838	27.8	59.5	上の中	上の中	竹強	竹強	竹強	中	—	強	中間～平坦 中～肥沃田	ふ先色が「黄白」のため、稈種との混種に注意する。 1穂粒数の確保と登熟向上のため、太植えや過肥は避ける。	良質多収 強稈	刈遅れると 糠色が濃くなる	

(注) 1 奨励品種決定調査による  
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)  
3 表中の値は農業試験場本場が平成25～29年の5ヵ年平均、徳佐寒冷地分場が平成10～18年の9ヵ年平均(「きぬむすめ」は平成16～18年の3ヵ年平均)

## 麦類

種類	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	芒の長短	株の開閉	脱粒性	播種程度	千粒重 g	容積重 g/L	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	抵抗性					栽培上の留意事項等	概評	
																			うどんこ病	赤かび病	縞萎縮病	倒伏	穂発芽		優 点	欠 点
小	ふくさやか	母 シサキコムキ 父 シロガネコムキ 近中四農研センター 平成14年	平18	11.15	4.8	5.31	82	8.3	396	中	竹開	中	II	34.9	792	43.3	中の上	9.5	竹弱	竹弱	中	強	中	短稈で倒伏に強い、穂肥を中心に通常より施肥量を増やすことで増収をねらう。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。	早生、良質、多収 倒伏に強い 製めんの色と粘弾性優れる	穂発芽耐性が不十分 うどんこ病にやや弱い
麦	せときらら	母 A*9/B//A*9/B 父 A*9/B//A*9/C A:ふくほのかB:AC DomainC:北見 第63号 近中四農研センター 平成25年	平25	11.15	4.7	6.2	92	8.7	387	中	竹開	中	I	41.5	807	53.2	中の上	10.5	弱	強	中	竹強	強	過繁茂になると倒伏する可能性があるため、極端な早播きは避ける。子実タンパクが低くなる傾向があるため、開花期追肥の実施等により子実タンパク向上に努める	良質、多収 製パン性を高める遺伝子を持つ	子実タンパクがやや低い
裸麦	トヨノカゼ	母 四系9123 父 四国裸90号 近中四農研センター 平成17年	平22	11.15	4.2	5.20	89	5.3	371	竹長	竹閉	難	V	32.3	828	47.7	上 下	—	中	竹弱	竹強	竹強	竹難	湿害に強くないため、排水対策を徹底する。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。過繁茂になると、倒伏が多くなる。	強稈、多収	赤かび病にやや弱い
二条大麦	サチホゴールド	母 大系R4224 父 関東二条29号 栃木農試 平成21年	平26	11.15	3.28	5.17	94	6.4	535	竹長	竹閉	竹難	I	48.6	704	46.4	中 中	—	極強	竹強	極強	竹強	中	出穂が早く、凍霜害が発生する危険があるため、極端な早播きは避ける。排水対策、赤かび病の防除を徹底する。	良質、縞萎縮病に強い 醸造適性が優れる	側面裂皮の発生がやや多い

(注) 1 奨励品種決定調査による。ただし、数値以外の特性は育成地のデータによる。  
2 表中の値は、25～29年産の5カ年平均。ただし、ふくさやかの子実タンパクは23～27年産の5カ年平均。平成27～29年産の「せときらら」には開花期追肥を実施。

## 大豆

秋 夏 大豆 別	早 中 晩	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	試験地	播種期 月日	開花期 月日	成熟期 月日	生態型	主茎長 cm	分枝数 本/株	主茎節数 節	胚軸色	花色	子実				百粒重 g	リトル重 g	紫斑病抵抗性	蔓化の難易	倒伏の難易	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	用途	栽培上の留意事項等	概評	
															種皮色	臍色	粒形	大小											優 点	欠 点
秋大豆	中の晩	サチユタカ	母 フユカエンレイ 父 エンレイ 九州農試 平成13年	平12	本場 分場	6.14 5.31	7.31 7.26	10.30 10.22	IIIc	53 53	5.7 7.6	15.0 15.8	紫	紫	黄白	黄	球	大の 小	35.6 33.9	754 —	強	難	難	37.8 37.4	上 下	46.6 45.2	豆腐 (味噌醤油)	莢数が少ないため、栽植本数を確保する(15本/m <sup>2</sup> 程度)。播種が7月中旬以降となる場合、栽植本数を20～25本/m <sup>2</sup> の密植とする。カメムシ防除を徹底する。ウイルス病に強くないため、黒大豆の隣接は場は避ける。	強茎、良質、多収、 紫斑病に強い。 成熟期の落葉が良い。 加工適性優れる。	やや少莢

(注) 1 奨励品種決定調査による  
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)  
3 表中の値は、本場は平成25～29年の5カ年平均。分場は、台風被害の大きかった平成16年を除く11～18年の7カ年平均